

平成 31 年度

富山大学 都市デザイン学部 都市・交通デザイン学科

推薦入試・帰国生徒入試・社会人入試

小論文

<問題冊子>

注 意 事 項

1. 開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
2. この問題冊子には、表紙および白紙を除いて問題が 2 枚あります。開始の合図があつてから確認してください。なお、文字等の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および汚れ等がある場合には、監督者に申し出てください。
3. この問題冊子の他に、解答用紙 1 枚、下書用紙 1 枚がありますので確認してください。汚れ等がある場合には、監督者に申し出てください。
4. 試験開始後に、解答用紙の所定欄に受験番号を記入してください。
5. 解答はすべて解答用紙に記入してください。
6. トイレ等により部屋から出る場合には、監督者に申し出て指示に従ってください。
7. 配付された問題冊子および下書用紙は、試験終了後、持ち帰ってください。

実施年月日
30.11.28
富山大学

問題

次の文章を読んで後の問に答えなさい。

社会的ジレンマの例として歴史的に最も有名なのは、ギャレット・ハーディンが紹介した「共有地の悲劇」の例です。

産業革命以前の伝統的なイギリスの農村には、コモンズと呼ばれる共有の牧草地がありました。日本の農村の入会地^(注)にあたるものです。農民たちはこのコモンズに羊などの家畜を放牧し、日常の用にあてていました。

農民たちが自給自足の足しにするために共有地を利用している間は問題はなかったのですが、産業革命の結果羊毛に対する需要が急増すると、自分たちで使用する限度を超えてなるべく多くの羊を放牧し、より多くの利潤を得ようとするようになります。一頭でも多くの羊を育てればそれだけ利潤も多くなるわけですから、農民たちはあらかってより多くの羊をコモンズに放牧するようになります。

問題なのは、あまりに多くの羊を放牧すると牧草が足りなくなり、羊たちが牧草の根まで食べてしまうため、次の年に牧草があまり育たなくなってしまうことです。ですから一定の牧草地から最大の利潤を得るためには、羊の数を一定の限界の中に押さえておく必要があります。牧草地が一人の農民のものであれば、その農民は当然、自分の羊の数をその限度内に押さえておくでしょう。

ところが共有の牧草地では、それぞれの農民が自分の利益のみを考えているかぎり、羊の数が限度を超えてしまうこととなります。この点を、もう少し具体的に考えてみましょう。

限度を超えて羊を増やしたときには牧草の再生量が減少するので、羊の成育が悪くなり、一頭あたりの利潤が低下します。例えば 100 人の農民がそれぞれ 10 頭の羊を共有の牧草地に放牧し、一頭あたり 10,000 円の利益をあげているとします。ここに誰かが一頭の羊をさらに加えると、一頭あたりの利益が 100 円分だけ減少するとしましょう。この羊を加えることにより、羊の持ち主が今まで持っていた羊からの利益は $10 \text{ 頭} \times 100 \text{ 円} = 1,000 \text{ 円}$ 分だけ減りますが、新たな羊から 9,900 円の利益をあげることができるので、差し引き 8,900 円の利益の増加になります。

この羊の持ち主にとっては、このように、新たに一頭の羊を加えることで、今まで以上に多くの利益をあげることになります。しかし農民全体を考えるとどうでしょう？ 100 人の農民がそれぞれ 10 頭の羊を飼っているわけですから、牧草地全体では 1,000 頭の羊がいます。この 1,000 頭の羊のそれぞれから得られる利益が 1 頭あたり 100 円分だけ減少すれば、全体では $1,000 \text{ 頭} \times 100 \text{ 円} = 10 \text{ 万円}$ の減収となり、新たに加えられた羊から得られる 9,900 円の利益を足しても、結局は全体で 90,100 円の減収になります。もし一人の農民が牧草地の全体を経営していれば、このように、損をすることがわかっていながら羊を増やすことはしないでしょう。

「共有地の悲劇」は、一頭の羊を増やすことによる全体の損失(10万円)が、そこから生まれる利益(9,900円)よりも大きいにもかかわらず、損失が農民全体に拡散してしまい、農民一人あたりの損失(1,000円)が利益よりも小さくなってしまいうために起るわけです。それぞれの農民にとっては自分の羊を増やした方が自分の利益が大きくなります。しかし全員がそのようにして羊を増やし続ければ結局は牧草地が荒廃してしまい、元も子もなくなってしまいます。

ここで注意しておく必要があるのは、この「共有地の悲劇」は村人たちが無知で、羊を増やすという自分たちの行動が悲劇を生み出すことを理解できなかったために起ったのではないという点です。

一人の農民が牧草地全体を管理していれば、羊の過剰放牧は起らないでしょう。しかし牧草地を農民たちが好き勝手に利用できる状態にあるかぎり、一人一人の農民がいくら悲劇的な結果を予想できたとしても、悲劇を回避することはできません。自分一人だけ羊を増やさないでいれば、失う利益がもっと大きくなってしまいますからです。

例えば先の牧草地で10頭の羊が増え、一頭あたりの利益が100円×10頭=1,000円分だけ減ったとします。このとき、自分は羊を増やさないと頑張っている農民は1,000円×10頭=10,000円の損をします。しかし自分も一頭だけ羊を増やせば、8,900円の利益をあげることができるので、損失は1,100円ですみます。このように、猫に鈴をつける必要性を一匹一匹のねずみがいくら理解していても、誰も自分から進んで鈴をつけようとしないうちに起る悲劇が回避できないのと同じように、全員で羊の数を減らすことを決定してその決定を守るのでないかぎり、結果を予想できるからといって、悲劇を回避できることに直接はつながりません。このことを、ここで理解しておく必要があります。

(山岸俊男『社会的ジレンマ』から)

(注) 入会地・・・「共同で薪炭用・肥料用の雑木・雑草の採集等のために利用する慣習上の権利(入会権)」が設定された山林原野または漁場。

(本文は原文のままである。ただし、一部の漢数字を算用数字で表記し、注を付けた。)

問1 「共有地の悲劇」を解決する手法について筆者はどのように述べているか、100字以内で要約しなさい。

問2 筆者はこの著書の中で、「共有地の悲劇」のように「個人の道理や論理にかなってたり個人にとって効率的である選択が、社会としての最適な選択に一致せず乖離^{かい}が生ずる場合の葛藤」を「社会的ジレンマ」と呼んでおり、「共有地の悲劇」のような問題は現在も地球上の至る所に見られると述べています。

これを踏まえ、あなたの身の回りで見られる「社会的ジレンマ」を有する問題の例をあげ、300字以内で説明しなさい。

問3 問2で指摘した事柄を解決するにはどのようにすれば良いか、あなたの考えを400字以内で述べなさい。

